



未来の登別漁港（イメージ）

登別漁港の取り組み

登別漁港が地域に開かれた漁港を目指す取り組みとして、『登別漁港まつり』の開催や富浦海岸での『地引き網体験』、漁業者とプレジャーボート利用者との『漁港の清掃や植樹』、『登別漁港市』などを開催しています。

また、登別まちづくり促進期成会が5月14日から毎週日曜日10時にJR登別駅前で行っている『アンテナショップ』の開設もその一環です。

モデル地域マリンビジョンに指定されると

北海道開発局は、今年度5つ程度のモデル地域マリンビジョンの指定を予定しています。

地域マリンビジョン計画がモデル地域マリンビジョンに指定されると、北海道開発局から技術的な助言や必要な情報提供、計画の実現に向けた調査支援が行われ、水産基盤の整備についても国により重点的に行われることとなります。

登別漁港の整備計画

登別漁港は、利用形態が全国的な第3種漁港で、国（北海道開発局）の直轄事業として漁港整備が行われます。

水揚げは、スケトウダラやシロザケ、ホッキ貝、毛ガニ、カレイで全

体水揚げの約90%を占めています。

また、イカの漁場が登別漁港から近く交通の便もよいことから、道内はもとより道外からも登別漁港が利用されています。

しかし、登別漁港は漁船数が多く漁業活動をスムーズに行うことができないため、イカの外来船や魚釣りなどのプレジャーボートの受け入れ数が制限されています。

また、主漁のスケトウダラ漁が始まる秋から冬にかけて、海がしけることが多く、漁船の安全な航行を確保することが課題となっています。

これらの課題の解決に向けて、漁船の混雑の解消を図り、衛生面にも配慮した機能的な漁港の整備が計画され、進められています。

また、登別・白老（虎杖浜）地域マリンビジョン計画は、ソフト事業であるのに対し、登別漁港整備計画はハード事業として、一体的に登別漁港の整備が進められることとなります。

問い合わせ
農林水産
グループ

(☎85 2 3 2 1)